

What's happening? 私の日本生活

工学部 知能情報工学科4年
朴貞華 バク ジョンファ [韓国]

私は中学校 3 年のクリスマスに日本の神戸に来ました。父の職場が日本になったのが理由で、両親、私、妹の4人家族みんなが移住することになったのです。出国 1 ヶ月前に聞いた突然の話だったので、急いで外語学院でひらがなとカタカナを学びました。何の準備もしていない状態での外国生活は想像以上に大変なものでした。

ひらがなとカタカナを読めるだけでは日本語を理解することはできないものですから漢字の勉強は日本語の勉強において最初の難関でした。日本に住む以上、日本語をマスターすべきだということで、国際学校(英語で授業を行う学校)でなく普通の日本の学校に入ることになりました。日本は高校入試があるので1年間日本語を勉強するために中2の3学期から入りました。最初は“授業を聴く”より“日本語を聴く”感じで、週に何回かは授業時間にボランティアの日本語の先生と日本語の勉強をしました。

友達ができない状況の学校生活で唯一の楽しみは部活でした。担当の先生に勧められ吹奏楽部に入り、クラリネットを吹くようになりました。言葉が分からなくて何もできないと思っていた自分が、自分の役割を果たしたと感じたときはとても嬉しかったです。私の場合、韓国でも部活をしていましたが週1回の趣味活動のようなものでした。日本のように体系的でやりがいのある、やる気を出させる部活動が韓国にもあってほしいと思います。

沖縄の海に潜って(2009.9)
右が筆者



徳島大学での部活動として潜水科学クラブに入りました。スクーバダイビングをしているサークルです。私は高専からの3年次編入生なので正式な活動期間は6ヶ月程しかありませんでしたが、良い人たちに出会えたことやライセンスが取れ、海に潜れたことなど、とても楽しく有意義な時間でした。特に、沖縄合宿で見た青くて美しい海が印象に残ります。一生忘れられない経験をしたと思います。

私は現在 B1 研究室(寺田研究室)で画像処理の基礎を学んでいます。来年は大学院に進学し、勉強を続けたいと思っています。中学生のときは今の私が全く想像できなかったのですが、良い方向へ進んで来たようで少しは安心しています。まだまだ日本生活が続くそうなのでこれからも楽しんでいきたいと思っています。



日本語の先生と2年ぶりの再会(2010.3)
左から筆者、四方先生、筆者の妹



沖縄合宿(2009.9)
潜水科学クラブ



武漢での かけがえのない 体験

総合科学部人間社会学科4年
下村 晴南 しもむら はるな

武漢での留学生活はとても刺激的なものでした。日々異文化に触れる機会があり、日本では想像もできなかった多くのことを体験させていただきました。特に思い出に残っているのは、二胡の演奏会に参加したことです。

2009年11月から毎週日曜日に友人とふたりで二胡を習い始めました。11月は挨拶と二胡の購入で終わり、12月から二胡のレッスンを開始しました。忘れもしない12月13日、初めての本格的なレッスンで、先生が私たちにある楽譜を渡し「クリスマスに演奏会があるからこの曲を演奏して」とおっしゃったのです。まだ二胡の弾き方でさえもわからない私たちは「あと12日で曲を弾けるようになるなんて無理!演奏会に入るなんて無理!」とパニックになりました。しかし、渡された当日のパンフレットには確かに友人と私の名前がありました。更なる追い討ちは先生の「新聞社も呼んであるからね」の一言……。「逃げ場がない」と悟った私たちはその日から毎日練習に励みました。曲はお正月によく歌われる「新年好」、16小節ほどの曲でした。「大丈夫、簡単だから!」の先生の応援を受けて12日間の毎日の特訓が始まりました。なんとか二胡を弾けるようになり、なんとか曲を覚えた私たちは、12月25日の演奏会に臨みました。会場は「洪山老年大学」、高齢者の方が楽器やダンスを学ぶ場でした。60歳以上の方と言えばちょうど、日中戦争を生き抜いた世代です。歓迎されるのか、そのことも不安でした。しかし、多くの方に温かく迎えられました。大きな教室を改装した舞台は思っていたよりも格式ばってなく、またそれも私たちを安心させてくれました。

いよいよ私たちの出番を迎えました。緊張しつつも先生や老年大学の生徒さんと一緒に合奏し、無事弾き終わったと思ったら、先生がまた初めから弾き始められたのです。と同時にあるご老人が颯爽と私たちの前に現れ、二胡の合奏にあわせて歌い始められたのです。驚きつつも演奏を続け、中国の方、しかもお年を召した方との共同作業に感激した2回目の演奏が終了しました。ほっと安心していたら、また先生の主導で、3回目の演奏が始まりました。3回目は、会場の生徒さん・観客の皆さん総勢70人ほどでの大合唱でした。演奏しながら、思わず涙が出そうになりました。会場いっばいに響く歌声を聞いて、会場の皆さんの心からの歓迎を実感しました。演奏が終わり、先生と、二胡の演奏者の方々と、独唱してくれたおじいさまと握手をし、「謝謝!」と心からの挨拶をして私たちの出番は終わりました。

次の日の新聞には小さく「日中友好」と書かれた記事がありました。撮影した写真も長々と受けた取材の内容も省かれていましたが(余談ですが一緒に出演した友人の名前も間違っていました)、当日の多くの人とのふれあいを思い返し、この演奏会が貴重な体験であったことを再確認しました。

この演奏会以外にも、武漢に留学して日本では想像もできなかったことを多く体験させていただきました。言語を習得するには10ヶ月では足りませんでした。武漢での生活から得たあらゆるものが今の私にとっては本当にかけがえのないものです。家族を含め、留学に関してお世話になった全ての人々に感謝しています。



演奏会にて(前列右端が筆者)



クラスメートのドイツ人デニーと



クラスメートの北朝鮮人と



仲良くさせていただいた漢・胡ご夫妻と



経済学部の運動会にて